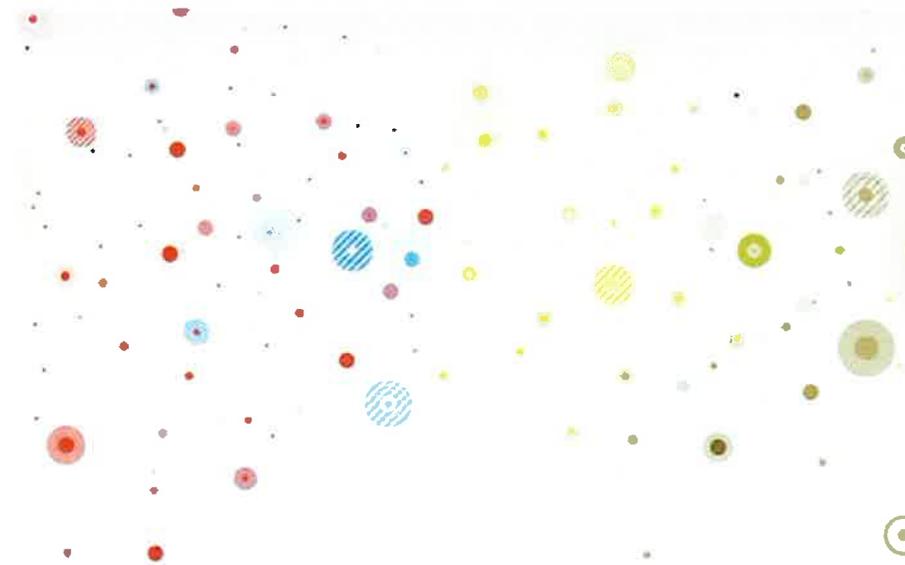

自己紹介

岡三証券 三浦 裕貴



社歴

| | |
|----------|-------------------------|
| 2002年4月 | 岡三証券入社 |
| 2002年7月 | 鈴鹿支店配属（総合職3級～1級⇒副主任⇒主任） |
| 2012年9月 | 梅田支店配属（主任） |
| 2013年7月 | 梅田支店 課長昇職 |
| 2016年8月 | 京都支店配属（課長） |
| 2020年9月 | 神戸支店（次長） |
| 2021年4月 | 神戸支店 部長に昇職 |
| 2021年10月 | 宇和島支店配属（支店長） |
| 2023年10月 | 広島支店配属（支店長） |

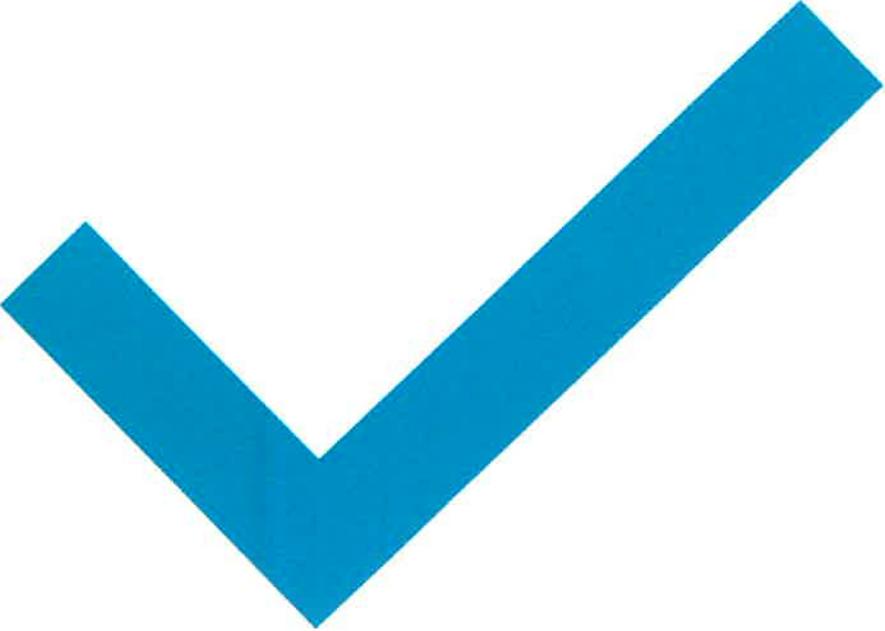
お気づきかもし
れませんが・・・

これまでの私の人生は・・・



だんじり一色

そもそもだんじり 祭りとは



約300年の歴史と伝統を誇る「岸和田だんじり祭」は、元禄16年（1703年）、時の岸和田藩主岡部長泰（おかべながやす）公が、京都伏見稻荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの5つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穰）祈願し、行った稻荷祭がその始まりと伝えられています。

9月祭礼と10月祭礼

9月祭礼

◎開催地区：岸和田（旧市）地区、春木地区の35町

【日程】

- 試験曳き：9月第一日曜日と宵宮の前日
（14:00～16:00）
- 宵 宮：本宮の前日
（6:00～22:00）
- 本 宮：敬老の日直前の日曜日
（9:00～22:00）
- 試験曳き：9月3日（日）、15日（金）14:00～16:00
- 宵 宮：9月16日（土）6:00～22:00
- 本 宮：9月17日（日）9:00～22:00

10月祭礼

◎開催地区：旭・太田地区、修斎地区、南掃守地区、八木地区、山直地区、山直南地区、山滝地区の47町

【日程】

- 試験曳き：本宮前週の日曜日
（13:00～17:00）
 - 宵 宮：本宮の前日
（6:00～22:00）
 - 本 宮：スポーツの日（旧体育の日）直前の日曜日
（7:00～22:00）
 - 試験曳き：10月1日（日）13:00～17:00
 - 宵 宮：10月7日（土）6:00～22:00
 - 本 宮：10月8日（日）8:00～22:00
-





だんじりの魅力①

徹底した組織統制と役割分担

町会の組織・運営

各町の祭礼の運営は一つの町会もしくは複数の町会の連合組織で行われている。

各町会では婦人会、子ども会などの団体と平行して各年齢層ごとに祭礼団体を組織し、一年を通じて祭りの準備や、定期的に奉仕活動、親睦を深める行事を行っている。だんじり祭が町を一つにするのである。

町会長

町会の代表者。だんじり曳行の際は曳行責任者とともに、だんじりの前方に添乗する。

曳行責任者

だんじり曳行における最高責任者。曳行中は常にだんじり前方に添乗する。世話人の中から選出される。

相談役・賛助員・参与

町によって名称は異なるが、世話人を終えた年配者の組織。町の長老として祭りのしきたりを後進に指導する。

世話人（60歳くらいまで）

町全体のまとめ役。町の代表として他の町との交流を深め、祭礼の運営を円滑に進める。

若頭（50歳くらいまで）

青年団・組のとりまとめ役。曳行中はだんじりの前後につき、事故防止等に努める。

組（40歳くらいまで）

だんじりの舵をとる後艇子を担当する。「十五人組」「三十人組」など町によって名称は異なるが、実際の人 数とは関係ない。

青年団（30歳くらいまで）

年間を通じて町の各行事に参加する。だんじり曳行の際は曳き手の中心となる。

少年団・子ども会（15歳くらいまで）

安全な綱の前方部分を曳き、自然にだんじり曳行の基本を身につけていく。灯入れ曳行時は子どもが主役と言える。



曳行時の役割

1. 鳴り物

大太鼓、小太鼓、笛、鉦を担当。通常、青年団から鳴り物係が選ばれる。

2. 綱先（つなさき）・綱中（つななか）

だんじり曳行の主動力。曳き手のうち、曳き綱の先頭を綱先、中ほどを綱中と呼ぶ。綱先は曳き綱がたるまないように綱を張り、綱中は進行方向に全力で綱を曳く。

3. 綱元（つなもと）

だんじりに一番近い曳き手を綱元と呼ぶ。やりまわしの時に綱中の力をだんじりに伝える重要な役割を果たす。

4. 前挺子

コマの回転面と地車の上にヒノキ材の挺子を差し込みだんじりを制御する。やりまわしの時、内側の前挺子は旋回のきっかけをつくり、内側のコマの回転を抑え、だんじりを曲がりやすくする。左 右二本の前挺子进行操作する係は非常に危険な役のため、かなりの熟練を要する。

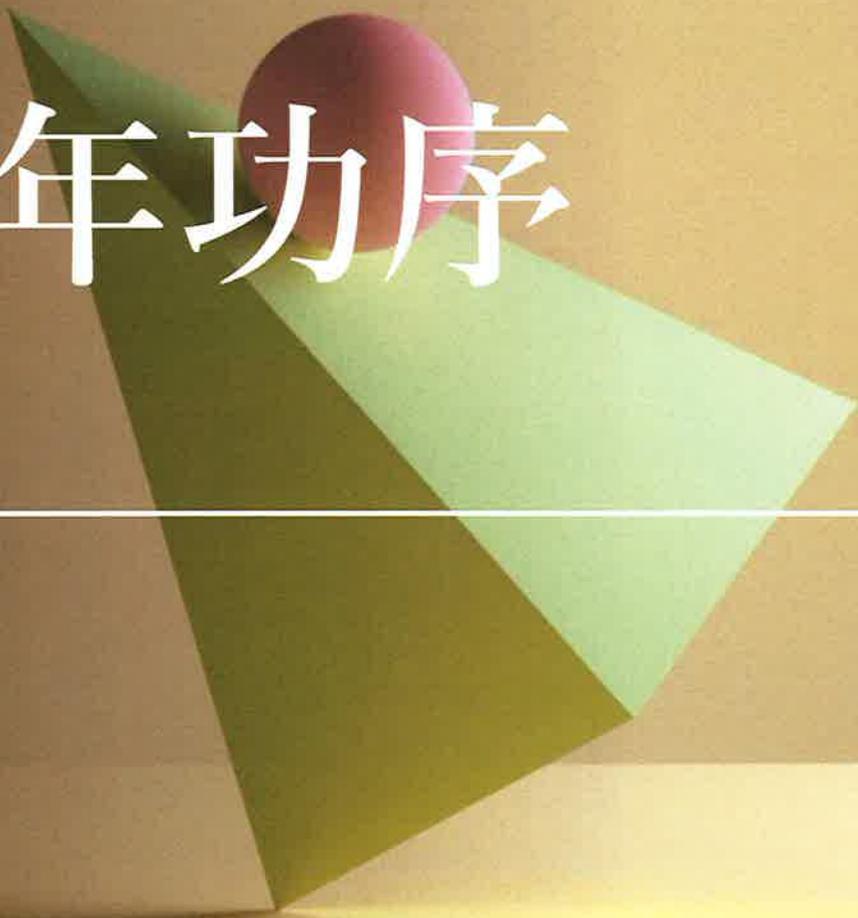
5. 大工方

だんじりの大屋根や小屋根に乗り、団扇を手に華麗に舞う。まただんじりの前方が見えない後挺子に進行方向を指示する。

6. 後挺子

だんじりの舵取り挺子で長さ約3.5メートル。大工方の合図により左右にくり付けられた綱（ドンス）を引いたり、肩で押すなどし、だんじりの向きを変える。二十人から三十人で担当する。

ちなみに青年団
の頃は・・



究極の年功序列

姿見



有名な五條大橋での武蔵坊弁慶と判官九郎義経こと牛若丸との出会いの場面。牛若丸が虚を突く様が見事に描かれている。この後欄干に立ち、大きく飛び上がり扇子を弁慶に投げる様子は後旗で描かれているので、この絵柄を選んだ。牛若丸の武術の師・僧正坊が鞍馬山から見守る様子も奥に彫られています。つけ木無しで、昔風の彫物らしく手数は少ないが手の込んだ、とても珍しい構図だそうです。



枡合左面：義家 飛雁行乱を見て伏兵を知る



軍船を仕立て、いよいよ平家討伐に旅立った為朝であったが、不運にも嵐に遭い、船は沈没寸前となる。この時、妻の白縫姫は海神に祈り、自身を贄として捧げるべく、海中に身を投じたそうです。それでも嵐はやまず。あきらめかけたその時、讃岐院の神勅を受けた烏天狗がやってきて救われ、息子の舜天丸も鰐鮫“わにざめ”に助けられたそうです。その場面が彫られています。



華麗に中を舞う、義経



土呂幕右面：鬼神に勝る巴御前



土呂幕左面：義経八艘飛び



巴御前をドアップで



左：宇治橋ノ合戦

右：石橋山ノ合戦



清盛落日ヲ呼戻ス



他のサイトへの転載及び許可なく営利目的での使用禁止

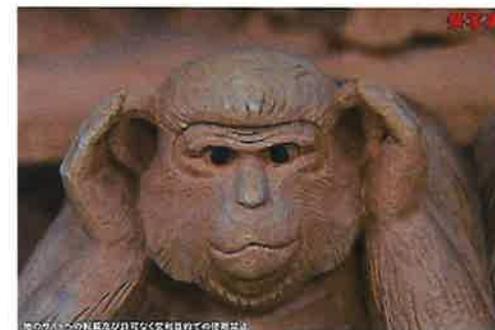
世間一般では三猿は『みざる』と言われ、正式には【さんざる】【さんえん】が正しい様です。見ざる言わざる聞かざるという諺を表す意匠として、国内だけでなく世界的に有名である。元々は古代ローマからシルクロードを経て日本に入ってきたとの説もある。地車では紙屋町の旗受けに通常の三猿がいる。

春木宮本町の三猿は通常のものとは異なり、『うちのだんじりをよく見て、太鼓の良い音を聴いて、他所で良い所を言うて下さい』という意味が込められている。そこから【聞い太郎・言う太郎・見太郎】という名前が付けられている。

これは春木宮本町が作った新しい文化だと思いがちですが、じつは歴史にきちんと存在しています。それは埼玉県『秩父夜祭』で有名な秩父神社にて現存する。徳川家康公が贈ったとも言われている彫刻で、元気になる三猿としても有名である。

こちらの三猿は『さんざる』と呼ばれている。

【よく見る、よく聞く、よく話す】といった人間の生活に欠かせない重要な行動であり、力が湧き出る基礎になる部分であり、人に活力を与えるという意味を持っている。非常に意味も歴史も持ち合わせた、地車では初めて採用された意匠である。



見太郎・言う太郎・聞い太郎

だんじりの 魅力③

やりまわし



やりまわし

山車、屋台を華とする全国各地の祭礼において、その山車、屋台が曲がり角で方向転換するさまは大きな見所となっている。例えば京都の祇園祭の鉾は車輪の下に、割った竹を敷いて滑らせる「辻まわし」を行う。飛騨高山祭の山車は「戻し車」という第五番目の車輪を使い、変則の三輪となって角を曲がる。

ところが岸和田のだんじりは他の山車のように慎重に角を曲がるのではなく、勢いよく走りながら直角に向きをかえる。言葉では簡単だが、重さ四トンを越えるだんじりを走りながら操作するのは容易ではない。祭りの二日間、だんじりは定められた曳行路を何周も何周も駆け巡り、そして曲がり角ごとに「やりまわし」を行う。その迫力とスピードにおいては岸和田だんじり祭を上回るものはないと言える。

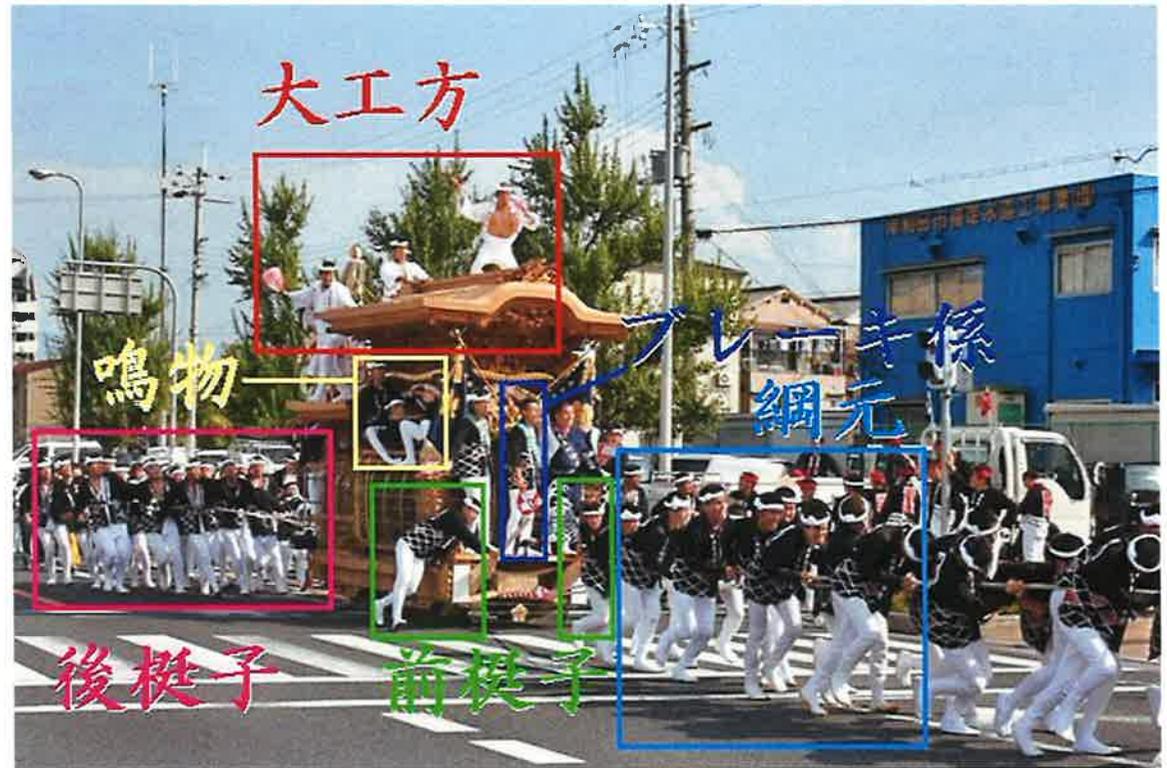
だんじりを前へ前へと曳く青年団、旋回のきっかけをつくる前梃子、舵取り役の後梃子、後梃子に合図を送る大工方、それぞれのタイミングを合わせるのが難しく腕の見せどころである。速く、正確に「やりまわし」を行うには、それぞれの持ち場を受け持つ各団体の息が合うことが重要となる。そのため、町ごとの仲間意識が非常に高く強いのも岸和田だんじり祭の大きな特長である。

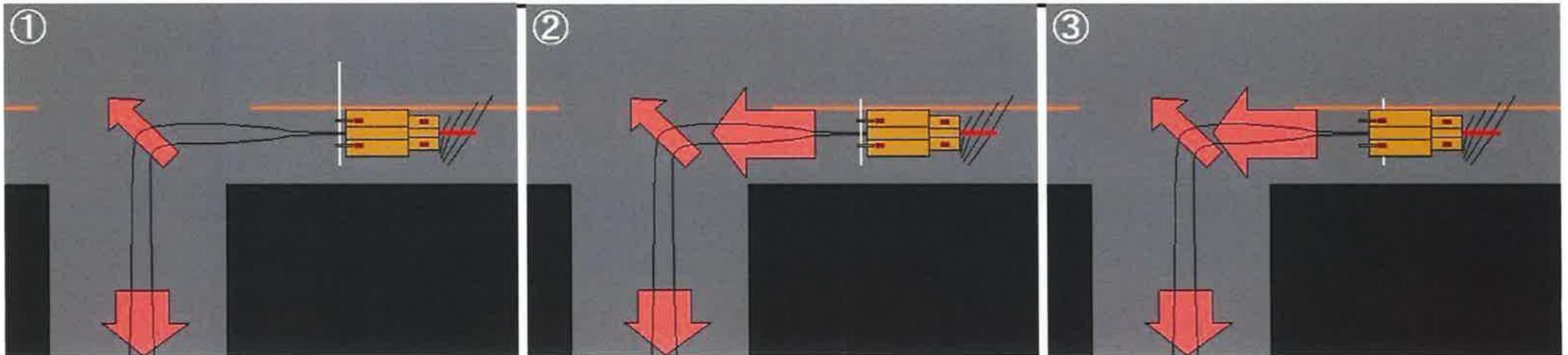


だんじりを動かすためには左右 2 本ある綱を若手の青年団を中心にみんなで引き、後ろに大きな棒が 1 本出ており、これが「後挺子」と呼ばれています。言わば「舵取り」の役目を担っていて、舵取りの役割には「後挺子」の他に、「前挺子」というポジションがあります。

だんじりの操作は複雑であり、後挺子はだんじりの後ろにいるため前が見えにくいのです。だからこそ、だんじりの屋根には指示を出す役割の「大工方」が乗っています。彼らが振るう「うちわ」によって後挺子に指示を出し、だんじりの進行方向を制御します。

また、だんじりの前にいる前挺子は、交差点を駆け抜ける「やりまわし」の際に重要な役割を果たします。例えば右に曲がる時は、右の前挺子が挺子を使って車輪をロックし、右側の車輪の動きを制限し、左側の車輪が回ることで曲がりやすくなります。このように、後挺子と前挺子が連携してだんじりの動きを制御します。





①
 まず地車を停止位置に据えます。
 据える位置は事前に青年団・後艇子・大工方・前艇子で協議して決めます。
 だんじりを据えたら綱の準備をします。
 道のどの位置に綱を通すかも協議して決めます。
 その位置に綱を通したら
 曲がり角より前側を前に向かって曳きます。

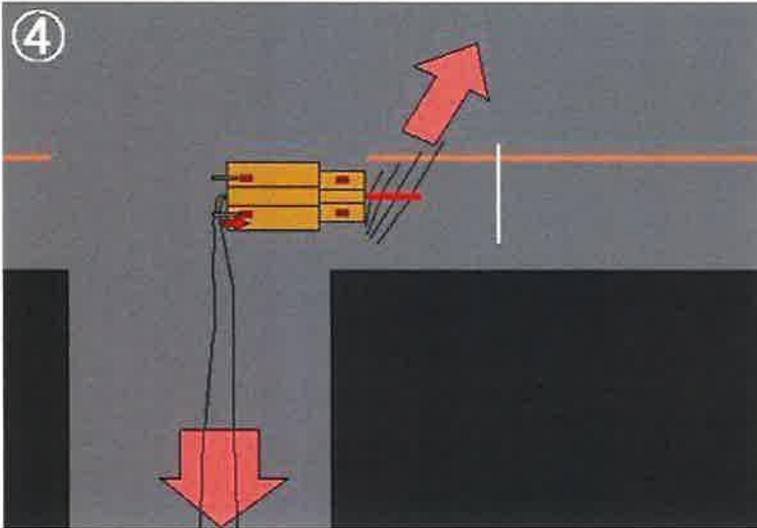
そのままだと綱が曲がっている部分（R[アール]と呼んでいます。）
 が角の内側に引っ張られます。
 それに負けないようにRの部分では角の外側に力を入れます。

Rが負けて内側に引っ張られるとだんじりが曲がる前に内側にぶつかってしまいます。

②
 スタート前、地車はブレーキを踏まれた状態です。
 全ての場所の準備が整ったら
 青年団の団長がスタートの合図をします。
 合図が出たら角より地車側の綱を進行方向に引っ張り、
 綱を張った状態でブレーキを解除すると地車がスタートします。

後艇子は曲がる外側のドンスを斜め後ろに、
 内側を斜め前に向かって持ちます。
 （まだ力を入れていません。）

③
 地車が前に進みだすとRの部分の人も進んでいきますが、
 Rが内側に来ないようにうまく回っていきま

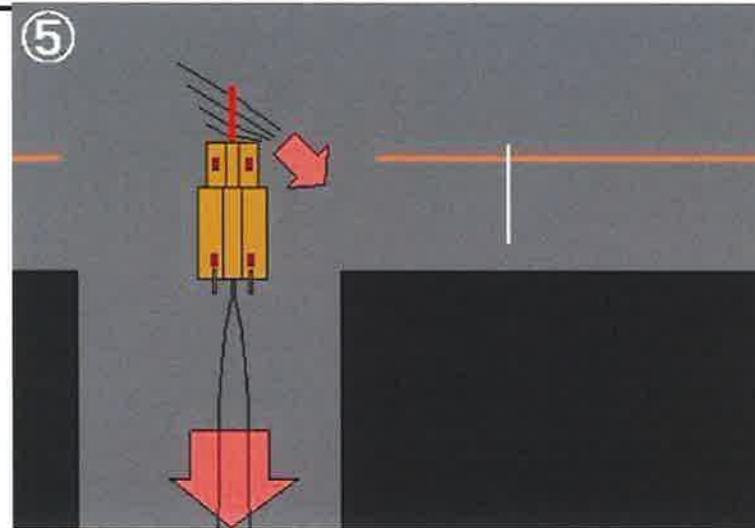


④
地車がRの位置まで進んでくると綱が地車の土台に当たり、地車に曲がる方向へ力が加わり、曲がる方向に進もうとします。

その時に後艇子は外側後方へ力を入れます。

また内側の前艇子をコマ（車輪のこと）に入れます。
そうすると内側のコマにブレーキがかかり、
外側のコマは進もうとするので曲がろうとする力がかかります。

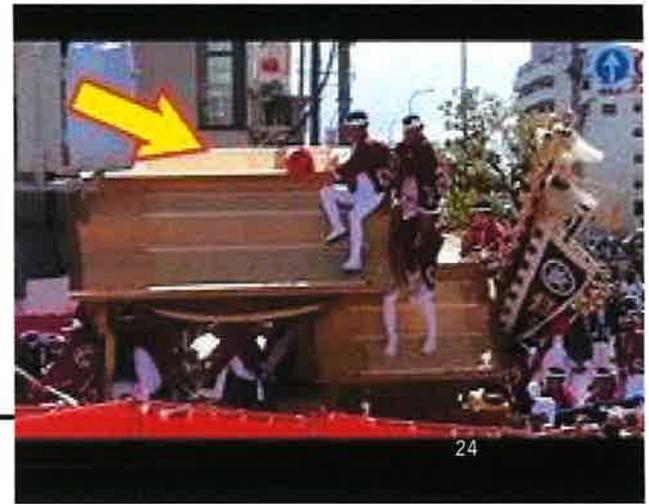
これらの力が合わさって地車が曲がっていきます。



⑤
曲がりきったら内側の後艇子は矢印方向に力を入れ、地車が曲がっていくのを止めます。
その後後艇子は地車の向きを微調整をします。
曲がりきったら綱を前に思いっきり曳くだけです。

綱・前艇子・後艇子・後艇子に指示を出す大工方の力のバランスやタイミングが少しでも狂うと地車が外側や内側に向いてしまったり、転倒したりしてしまいます。

参加している全ての人間の息が合わなければきれいなやりまわしはできません。



だんじりの魅力④

家族・仲間



たとえコロナ
であっても
も・・

マスクをしてやります



いい歳した男
たちが・・

泣きます！





そんな岸和田だんじり祭は・・・

最高の祭りです
